

保護者等向け 放課後等デイサービス自己評価表

公表日： 2023年3月17日

事業所名 つぼみ園

	チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	国の設置基準で定められたスペースを確保しています。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	職員配置基準より多い職員数を配置しています。 また、活動内容によってさらに手厚く配置するなど、臨機応変に対応しています。
	③ 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	施設設備等は全てバリアフリー化されています。 危険個所を発見した際には、その都度工夫しながら臨機応変に対応してまいります。
適切な支援の提供	④ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	利用者さんの生活の中の姿から必要な支援目標をより明確に選定し今後も組み立てていきたいと考えております。
	⑤ 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	安心して活動に取り組むことができる工夫を継続して行っていきたいと思えます。必要な支援内容の中に楽しい要素が入った設定の充実をさせていきたいと思えます。

ハ	⑥ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	公園での活動では、地域の子どもたちとのかわりかもてる時もあり、今後も積極的に実施していきます。
保護者への説明等	⑦ 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	管理者が、ご利用契約時に資料と共にお伝えしています。
	⑧ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	日頃の利用者さんの姿を知ることが必要な支援を見つける手掛かりになります。お迎えの際のお話では、十分に時間を取れないこともあるかと思えます。時間を取ってお話しさせていただくこともできますので、必要な時には、スタッフまでお気軽にお声かけください。
	⑨ 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	何かありました、お気軽にスタッフまでお声かけください。随時面談対応はさせていただきます。
	⑩ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	父母の会の活動はありませんが、希望があれば積極的にご支援できるよう努めます。
	⑪ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情への対応については契約時の重要事項説明書にて、ご説明をさせていただいております。今後も保護者の方からのご意見には可能な限り話し合い、対応してまいります。
	⑫ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	日頃から、書面・写真カード・シンボルカード等の支援ツールを取り入れ情報伝達の為の工夫と配慮をおこなっています。

	⑬ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	日常の様子を見ていただく機会も限られますので、活動の様子を知っていただけるよう更なる内容の充実に努めて行きます。
	⑭ 個人情報に十分注意しているか	事務所内に書庫を設置して全ての個人情報ファイルを保管しています。営業終了時には事務所の出入り口も施錠するなど十分注意して取り扱っています。写真撮影や掲載等、個人情報に関わる部分については事前に保護者の方々に説明・同意を書面でいただいています。破棄する書類はシュレッダー処理をしています。
非常時等の対応	⑮ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	各種マニュアルは策定し、つぼみ園玄関や事務所など常に確認できる場所に掲示してあります。
	⑯ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	月に1回の避難訓練・消火訓練、年2回通報訓練を行なっています。
満足度	⑰ 子どもは通所を楽しみにしているか	利用者さんが安心して過ごせる場所として、環境や活動のプログラムを日々更新していきたいと思えます。利用者さんの困り感や成長、新たな一面を発見していくことが、私たち職員の成長につながっています。職員ひとり一人が利用者さんの様子から多くのことを学んでいると日々実感しています。
	⑱ 事業所の支援に満足しているか	日々の関りの中での変化を見逃さない職員の確かな目(感覚)こそが重要と考えています。職員の専門性を常に高め、日々努力を重ねてまいります。利用者さんの笑顔と成長が私たちの励みです。保護者の皆様のご協力があるからこそ、お子様が通ってくださっていることに感謝の気持ちを忘れることなく、支援の質を深めていけるよう努力を重ねて参ります。